

窓から穴道湖を臨み、広がる青空。

緑に恵まれた玉湯の丘で期待に応える病院を目指します。

No. 32
2013年 夏号

玉造厚生年金病院広報誌

たまつくり

Now ナウ



耐震強化整備工事を行った玉造厚生年金病院の外観

理念

1. 私たちは、医療人としての責任を自覚し、研修をおこたらず安全で水準の高い医療の提供に努めます。
2. 私たちは、患者さまが自立した生活を送れるよう身体機能の回復、維持、日常生活動作の改善を支援します。
3. 私たちは、「いつも笑顔で真心こめて」をモットーに、患者様の立場に立った心温まる医療を行います。
4. 私たちは、地域の人々のために、保健・福祉活動の充実に努めます。

CONTENTS

最新医療レポート	2
新規資格取得者の紹介	3
TOPICS	4・5
インターンシップ体験記/HOT NEWS	6
病棟紹介/新人紹介	7
INFORMATION	8

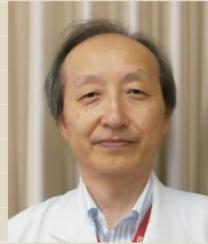
人工関節OP件数 8,125件 (7月31日現在)



一般財団法人 厚生年金事業振興団

玉造厚生年金病院
日本医療機能評価機構 一般病院認定

感染症対策



内科部長
芦沢 信雄

ICTの活動について

ICT (Infection Control Team) : 感染制御チーム

慢性肝炎・肝硬変・肝臓がんの主な原因がB型・C型肝炎ウイルスの持続感染であることだけでなく、胃十二指腸潰瘍・胃癌とヘリコバクターピロリ菌感染、子宮頸部癌とパピローマウイルス感染、そして関節リウマチをはじめとする多くの自己免疫性疾患、1型糖尿病や一部の神経疾患の発症には細菌やウイルス感染が引き金になっていることなど、多くの病気の発症に感染症が関与していることがわかってきています。実はほとんどの病気は、遺伝的な背景に環境・生活習慣・感染に伴って起こる各種免疫異常が絡んで発症すると言ってもよいのかもしれない。

また従来から様々な抗生物質で対処してきた細菌感染症でさえ、それらの抗生物質が効かなくなる耐性菌の蔓延が問題になり、インフルエンザ、ノロウイルスの爆発的流行は毎年多数の犠牲者を出しています。とにかく感染症対策は、医療において最も頭を悩ませる問題であることに違いありません。当院にも感染症対策を行う院内感染対策委員会というものがありません。感染症への対応は一旦後手に廻ると急速に病状が悪化したり、周囲の人たちに感染が広がっていくので、迅速な対応が必要となります。

そこで、院内感染対策委員会の実働部隊としてICT (感染制御チーム: Infection Control Team) があります。それぞれ1から2名の医師、看護師、検査技師、薬剤師、事務担当で構成されており、院内での感染症の状況把握を常に行い、制御困難な感染症の治療に関するアドバイス、他の患者さんに感染を上げないための対策・指導も直ちに行い、特に感染症の問題が起こっていない時でも、毎週院内各所を見回り、衛生環境の整備、医療従事者が感染防止対策をきちんとできる状況になっているかなどについてチェックしています。

当院の感染制御チーム (ICT)



感染管理認定看護師
石倉 淳子

新規資格取得者の紹介

「感染管理認定看護師」に合格して

みなさんこんにちは。

玉造NOW6月号に引き続き今月号でもお世話になります石倉です。6月号で「感染管理認定看護師」について少しお話しさせていただきました。先日認定審査合格発表があり、晴れて「感染管理認定看護師」としての資格を取得することができました。資格に恥じないように頑張らねば!! と、ふんどし!? を締め直すような気分です。

「感染管理認定看護師」?? と思われた方もたくさんいらっしゃることでしょ。感染管理認定看護師は病院に訪れる全ての人を感染から守ることを任務とした専門的な看護師のことをいいます。そのために長い研修を受けるのですが、先月はその研修中のようすを交えながら、ばい菌が姿を現すお皿を写真で紹介しました。

ばい菌 (細菌やウイルス、かび、などなど) は私たちの身の回り…どころか自分自身の身体にもともとたくさんいて、仲よく共存したり悪いばい菌と闘ったりしています。ばい菌たちは生き物 (人間も含め) に侵入して感染を起こし病気を発生させます。ばい菌たちはどのようにして移り住んでいくのでしょうか…。その経路は主に3種類あります。まず手や皮膚に接触することで感染す

るばい菌、ゴホンゴホン…咳やくしゃみの飛沫で感染するばい菌、超軽量のばい菌がフワフワと空中を漂い感染するばい菌…です。これだけ聞くと怖くて外に出られない気分になりますが、私たちには「免疫」という戦闘隊がいて常に戦っています。疲れた時にひく「けんべき風邪」というのは疲労により免疫力が低下し戦闘態勢が弱まった時にばい菌の力の方が勝ってしまった状態のことです。これから夏を迎え食欲が低下しがちです。夏風邪はバカがひく!! いえいえ誰でもかかるものです。免疫力キープ…と共に、特に病院という場所はより安心して治療、療養に専念していただける環境を保持していくことが大切です。そのために職員、患者様ご自身、お見舞いの方など皆様のきれいな手と、よく清掃されたきれいな環境が大切です。これからもコツコツ努力とニコニコ笑顔を忘れずに努めさせていただきます。

資格取得にあたり、ここまで応援、協力をしてくださった職場の皆様や家族に感謝します。



細菌検査について

病気の原因を探る目的で血液や尿を培養検査に提出することは日常的におこなわれます。さて、培養検査とはどのようなことでしょうか。細菌にはそれぞれ名前がついています。その名前まで判明する検査の流れを「菌の同定検査」といいます。そのためにはミクロの世界の細菌を増やしてやる作業が必要です。この増やす過程が「培養」ということとなります。増やした細菌はさらに効果のある抗生薬の種類を調べることもできます。検体の採取は患者さまにとっても大変なことです。しかしここでいかに良質な検体を採取するかは治療を左右するとても重要なことなのです。細菌を増やしてからの検査ですので少し時間も要します。今回はその流れを説明します。



ピーター・ダビッドソン氏寄贈「宍道湖の夕陽2012」

癒しの空間への誘い

副院長
池田 登



5月連休明けに、病院のエントランスホール正面に向かって左側の大理石の壁に大きな絵画が飾られました。みなさまお気づきでしょうか？2階のリハ室の帰りにも見ることができるように、通常目線よりやや高めの所に飾ったので、気づきにくいかもしれません。神戸市在住のオーストリア人画家ピーター・ダビッドソン氏寄贈の作品で、西病棟から眺めた宍道湖に沈む夕陽が描かれています。この絵は西神戸医療センター藤原正利医師たちの“ Healing art project ”のメッセージに共鳴して掲げられています。このプロジェクトは病院にはたくさんの飾り気のない壁があり、それらによってあまりにも無機質な空間ができていたので、壁に絵画等を飾ることによってアメニティーの向上を図り、患者さんだけでなく病院職員全員の癒しの空間にしたいといった発想からはじめられました。



藤原先生は近隣のいくつかの病院にも働きかけて、絵画を提供し、神戸市では高い評価を得ていると伺っております。

病院にお越しの際は、是非ともエントランスホールまで行き、少し上を向いてこの絵を鑑賞して頂き、癒しの空間を味わって頂ければ幸いです。



宍道湖の夕陽試作品

西神戸医療センター 整形外科
藤原 正利

“宍道湖の夕陽2012” in “Healing art project”

玉造厚生年金病院の正面左側の壁に、ピーター・ダビッドソン氏の“宍道湖の夕陽2012”が、今年5月に設置されたと聞き喜んでます。この実現に協力して頂いた、三河義弘院長先生、池田登副院長先生、事務局長及び地域連携室を含む病院スタッフの皆様のご尽力に感謝いたします。

西神戸医療センターでは、ピーター氏とアメニティーグループの協力のもと、院内に地域の美しい風景を飾ることによって、院内の環境を患者さんにもスタッフにも優しいものにしよと言う“ Healing art project ”を2010年より開始しました。院内での評判は良好で、ピン



ク色は元気になる感じがする、ブルーは心が落ち着く、近所の風景が絵にされているのは嬉しいなどの意見がありました。

年来の友人である池田先生に、玉造厚生年金病院にも美しい風景の画を架けては如何と相談しました。宍道湖は夕陽の名所ですし、以前の広報誌も夕映えと聞いていました。三河先生、池田先生の協力のおかげで、昨年3月18日にピーター氏と玉造厚生年金病院を訪れることができ、島根半島や宍道湖を背景とした美しい夕映えに感動いたしました。ピーター氏も全力を尽くし1年がかりで、宍道湖の画を完成させました。この絵は今年1月にピーター氏の個展で、展示されましたが、見学していた人々は、確かに宍道湖の夕陽はこんな感じだ、夕陽スポットとは知らなかったなどと呟いていました。私も松江赤十字病院に勤めていて多くの夕陽を見ましたが、この絵を見た後で実際の風景を見ると以前とは違った風に見える感じがします。

皆様がこの絵をご覧になり、宍道湖の夕陽がこの上なく美しいものだとしてさらにさらに実感されることを祈ります。

当院での365日リハビリテーション提供への歩み

主任理学療法士
来海 悟



当院リハビリテーション室では平成11年から月に1日、休日に全ての入院リハビリ対象患者様にリハビリを提供する休日リハビリテーション（以下、休日リハ）を開始しました。当時は、月1回の対象日にリハスタッフ全員が平日同様に出勤してリハビリを実施しました。

平成15年、回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期リハ病棟）開設に伴い、休日リハ実施日を回復期リハ病棟患者様対象に1日増やしました。平成18年より毎週土曜日に休日リハを実施することとしました。休日勤務日数が増えたことで出勤スタッフ数を減らし、対象者も回復期リハ病棟や術後患者様の一部の方に限定させていただきました。平成21年11月より完全365日リハビリ提供を目標に、全ての休日（年末年始も含め）でリハビリを実施することとしました。一部の患者様限定ではありますが、365日リハビリのスタートとなりました。



入院リハビリ対象患者様に365日リハビリを提供するために平成22年7月よ

り、勤務体制を交代勤務制へ変更しました。休日リハの充実を図るため、スタッフを年々増員しました。平成23年7月から言語療法で完全365日リハ



ハビリ提供開始。今年、平成25年7月から理学療法、作業療法で完全365日リハビリ提供を開始できるようになりました。この365日リハビリを実施することにより、患者様は入院から退院までの間、途切れることなくリハビリを受けることができ、リハビリサービスの向上、ならびに早期回復、早期退院のお手伝いになると考えています。

現在、理学療法士30名、作業療法士14名、言語聴覚士3名、補助員5名、総勢52名のスタッフで、この365日リハビリの提供を行うことで地域医療への貢献とリハビリテーションの中核病院として医療の質を高めていこうと頑張っています。

熱中症を予防して元気な夏を!!

整形外科外来 主任看護師
広野 里子



今年も暑い季節がやってきました。そして、熱中症になる人が増えてきます。玉造病院では、地域の皆様が健康で元気な日常を過ごす為の一助となることを目的に、ご要望のあった地域で出張講演会を行っています。これまでに行った熱中症予防の講演の一部を紹介します。

熱中症について
知って頂き、しっかり
予防し、楽しい夏
を過ごしましょう。



熱中症の症状

初期症状として、めまい・立ちくらみ・こむら返り・大量の汗などがみられ、症状が増すにつれて、頭痛・吐き気・体のだるさ・体に力がはいらない・集中力や判断力の低下などがみられます。さらに症状が進行すると、呼びかけに反応がなくなる・けいれん・高体温などがみられます。

自分で水が飲めなかったり、倦怠感が強く動けない、意識がおかしい、全身のけいれんがある場合はためらわず救急車を呼んでください

◆熱中症予防のポイント

1. 部屋の温度をこまめにチェック!
2. 室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。
3. のどが渴いたと感じたら必ず水分補給! (アルコールは禁)
4. のどが渴かなくてもこまめに水分補給する。
5. 外出の際は体を締めつけない涼しい服装で、日よけ対策もする。
6. 無理をせず適度に休息する。
7. 日頃から栄養バランスのよい食事と体力づくりをする。

◆熱中症の応急手当

- 涼しい場所へ移動し、衣服をゆるめ、安静に寝かせる。
- 扇風機やうちわなどで風を当て、体を冷やす。
- わきの下や太ももの付け根などを冷やす。
- 飲むことができるなら、水分を少しずつ頻回に飲ませる



インターンシップ体験記

玉造厚生年金病院での実習を終えて

京都大学医学部医学科5回生
藪 愛紗美

6月15日から7月5日までの3週間、整形外科にて臨床実習をさせて頂きました。島根という初めての土地で暮らすことに不安を抱いていたのですが、関西と比べて時の流れがどこかしらゆったりとしていて、美味しいご飯、素敵な景色、優しい親切な方ばかりでとても過ごしやすい環境でありました。

整形外科は机上の勉強ではイメージがなかなか湧かず理解に苦しんでいたのですが、実際に外来見学で患者さんを見させて頂いたり手術を間近で見させて頂くと、立体把握ができ教科書の説明も納得できるようになりました。これも模型を使ったり作図をしたりして熱心に先生方が教えてくださったお陰でありました。また、術中もよく見えるように足場を用意して下さったり御気遣いいただいたスタッフの方々のお陰でもありました。リハビリテーション、薬剤部、検査部とコメディカルの見学もさせて頂いて疾患自体だけではなく患者さんや病院全体の知識を深めることもできました。整形外科に慣れるため、お忙しい中空いた時間に手術の体験をさせて頂いたり講演会に連れて行って下さったりと、とても充実した3週間を送ることができました。先生方のお話を聞くことで地域で働く医師の生活も知ることができました。

不思議なご縁でこの病院で実習させて頂いたのですが、良き人々、文化、自然と出会えた大変貴重な機会でありました。京都に戻ってからもここで学んだことを生かして、実習を続けていきたいと思っております。先生方をはじめ、お世話になった病院のスタッフの方々にご場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



池田副院長（京都大学臨床教授）と

H O T N E W S

放射線室の快挙



放射線技師
丸山 賢吾

画論20th The Best Image 2012 MRI部門(1.5T部門)で特別賞を受賞

2012年12月15・16日、「画論20th The Best Image 2012」が東京国際フォーラムにて開催されました。

この催しは、医療画像の臨床的な有用性を高め、最良の画像を生み出すことを目的とし、全国から応募させた臨床画像について厳正な審査に基づき"Best Image"を選定、画像を提示しながらディスカッションを行い最終審査・表彰を行うものです。

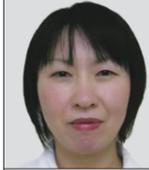
今回、当院の応募画像「脊髄硬膜内くも膜のう胞腫」が最終選考に選出され、放射線室 診療放射線技師 丸山賢吾と勝田和弘の2名がディスカッション及び最終審査に臨みました。そして最終選考に選出された14件の中から、MRI部門(1.5T部門)特別賞を受賞いたしました。

今後も、患者さまの診断に有用な画像を診療サイドに提供し続けられるよう努力していきたいと思っております。



受賞したときの賞状とトロフィー

西3階病棟



看護師長
三谷 和美

西3階病棟は、亜急性期病床40床と内科・リウマチ科・歯科口腔外科を主とする一般病床11床からなる病棟です。

亜急性期病床は急性期治療を経過した患者様に対し、在宅復帰支援及びリハビリテーションを含む効率的な医療を提供する病床です。当病棟は、脊椎センターでの周術期後、全身状態が落ち着いた患者様を受け入れ在宅復帰に向けた看護を行っています。担当訓練士、在宅復帰支援担当者、必要時は地域の福祉担当者と連携を密にとることにより、患者様に安心して退院していただけるよう働きかけています。

内科疾患患者様の多くは糖尿病の血糖コントロール目的の入院です。糖尿病に対する知識や生活習慣を確認後、患者様の同意を得て糖尿病学習を計画実施しています。患者様に糖尿病治療に関心を持っていただき、在宅での治療が継続できるよう援助を行っています。また、医師、栄養士を交えカンファレンスを行い情報を共有し、看護援助へ役立てています。

歯科口腔外科では、インプラントの手術をはじめ外科的手術が行われ、患者様が不安なく手術を受けることができるよう援助しています。

病棟は看護師20名、看護補助者5名の計25名で「明るく元気に生き活きと!」をモットーに日々働いています。混合病棟のためスタッフは幅広い知識と技術が求められ、医師の協力を得ながら勉強会を行っています。これからも患者様に良い看護が提供できるようスタッフ一同頑張っていきます。



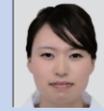
看護師
井上 望

4月から看護師として当院の回復期リハビリテーション病棟に勤務しています。今はまだまだ自分ができることは少ないですが、毎日リハビリを頑張っておられる患者様の支えになれるよう、先輩や患者様から学び日々成長していこうと思っています。よろしくお願いします。



看護師
久保 佑佳

東2病棟に配属されました。玉造に来る前は長野県松本市という所で5年間、看護師として働いていました。病棟に配属されてから約3ヶ月経ちますが、勉強になることが多くて、日々学んでいます。一日でも早く仕事に慣れるように頑張りたいと思っていますので、よろしくお願いします。



看護師
内藤 陽菜

4月から看護師として働かせていただいています。まだまだ分からないことだらけですが、目標をもって頑張り、日々成長していきたいと思っています。よろしくお願いします。



看護師
中村 幸子

今までベッド上療養の患者様の看護をしてきました。退院される方の看護がしたいと思い、玉造厚生年金病院に来ました。病棟では、日々リハビリに励まれ、歩けるようになっていく患者様の援助ができ、毎日充実しています。これからリハビリについてもっと学習し、患者様によりよい看護が提供できるよう頑張りたいです。



看護師
野津 汐里

4月から看護師として人工関節センターで働かせていただいています。毎日覚えることはたくさんありますが、先輩看護師に丁寧に指導していただき、楽しく働いています。笑顔の絶えない看護師になれるよう頑張りますのでよろしくお願いします。



理学療法士
金森 美歩

4月から理学療法士として働かせていただいています。未熟なところや慣れないことが多くありますが、先輩方の丁寧な指導のもとで日々成長していけるよう頑張っています。笑顔忘れず明るい雰囲気でお手伝いしていきますので、これからよろしくお願いします。

病診連携症例検討会開催しました!!

当院では、地域の先生方との連携を大事にしています。

松江、出雲及び浜田にて年1回ずつ各地区の先生方をお招きし病診連携症例検討会を開催しています。今年度は4月（松江）、6月（出雲）、7月（浜田）に当院の医師が各地区にお邪魔して下記症例について報告するとともに地域の先生方との交流を深めました。

- ・「人工関節置換術の術前口腔内検診」
- ・腰痛疾患の治療「腰椎圧迫骨折のセメント治療法」
- ・股関節痛疾患の治療「人工股関節置換術に対する3次元術前テンプレートとシミュレーション」



皮膚科医師による診療を開始しました。

皮膚科医師：吉田 暁子（日本皮膚科学会専門医）による診療を開始しました。

【診察日時】 毎月第1、3、5週の火曜日 14:00～17:00

【予約方法】 診療ご希望の方はご予約のうえお越し下さい。

予約受付時間 14:00～17:00（予約の患者様が優先となります）

【予約電話】 0852-62-1544

日本皮膚科学会専門医

吉田 暁子



市民公開講座を開催します。

理学療法士、医師による講演、及び相談コーナーを設けますので、関節や腰の痛みなどでお悩みの方気軽にご相談ください。多数の皆様のご参加お待ちしております。

玉造厚生年金病院・市民公開講座

元気に歩けるしあわせ教室・人工関節友の会の集い合同開催

関節や腰の痛みで お悩みの方へ

平成25年 9月29日(日)

開場12時30分 開演13時00分～15時00分

松江デルサ・1階デルサホール

入場
無料

要予約

**講演 I. 「人工関節手術を受けた方
より良い日常生活を送るために」**
理学療法士 若槻 圭

講演 II. 「腰椎(こし)のよくある病氣」
整形外科部長 骨格外科センター長 石部 達也

相談コーナー (医師・栄養士他による相談コーナー)
整形外科医師 / 管理栄養士 他

※人工関節展示コーナー
(実際に使用する人工関節を展示し、スタッフが解りやすく説明します)

申込み・問い合わせ先

玉造厚生年金病院 地域連携室 電話:0852-62-1591

主催 玉造厚生年金病院

耐震強化整備工事の終了について

昨年4月から開始いたしました当院病棟部分の耐震強化整備工事につきましては、本年6月末をもって予定どおり無事終了いたしました。

工事期間中は騒音等でご不便をお掛けしましたが、患者様及び地域の皆様方をはじめ多くの方々のご理解・ご協力をいただき、深く感謝いたします。

この工事により、耐震性確保のために宍道湖側に建てられたクリーム色のアウトフレーム（枠）がひととき目を引く外観となりました。

装いも新たに、地域の基幹病院としての使命を全うすべく職員一丸となり、安全で良質な医療の提供に取り組んでまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。



連日、日中夜ともに暑い日が続いていますが、夜に時折耳を澄ますとどこからか火花の音を聞くことがあります。

7月から8月にかけて県内でも多くの夏祭りが開催されます。夏祭りの起源は祖先の霊を供養するためや夏季の疫病を封じける行事だったようですが、最近では華やかなものが多くなってきました。

みなさんも出かけてみて、一時の涼を感じてみてはどうでしょうか。

ホームページから たまづくり NOW が
ダウンロードできます。 <http://tamahosp.jp>

■編集・発行責任者/院長 三河義弘 ■広報/小谷博信

患者様の権利

あなたは、人種・国籍・性別・年齢・宗教、その他の個人的な背景に拘らず、差別なしに適切な医療を受ける権利を持ちます。
あなたは、担当の医師や病院を自由に選択できる権利を持ち、またどの治療段階においても、他の医師の意見を求める権利を持ちます。
あなたは、すべての医療上の記録を知る権利を持ちます。また、医師から症状について十分な説明を受ける権利を持ち、自分自身に関わる治療方針を自由に決定できる権利を持ちます。
あなたのプライバシーと個人情報とは完全に保護いたします。

玉造厚生年金病院

〒699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2
TEL 0852(62)1560